

英語教育改善プラン推進事業 第2回ワーキング会議



令和5年9月26日（火）

県総合教育センター第3研修室他
義務教育課・高校教育課

Today's Menu

①事務局より

- ・第1回ワーキング振り返り(大学教授の指導助言)
- ・2学期提案授業
- ・研究指定校アンケート

②信州大学 酒井英樹 教授 講演

③指導案検討(分科会)

山梨県英語教育改善プラン推進事業

【背景】グローバル化の更なる進展・ポストコロナを見据えて

- 自国や他国の言語や文化を理解し、日本人としての美德やよさを生かし、グローバルな視野で効果的に対外発信できる資質・能力の育成が不可欠。
- 国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力においては、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」のバランスのとれた育成が重要。
- 海外に飛び出して文化や価値観の多様性に触れ、世界中の人々と協働する力を育成するために、教育課程外・学校外の活動の充実も必要。

参考：英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)

【課題】令和3年度英語教育実施状況調査結果(山梨県結果)より

- CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の中3生の割合 39.3%
- CEFR A1レベル(英検準2級)相当以上の高3生の割合 48.9%
- CEFR B2レベル(英検準1級)以上の教師の割合 中32.0% 高82.2%
- 授業の半分以上、言語活動を行っている割合 中68.8% 高50.0%
- 授業の半分以上を英語で行っている教師の割合 中70.8% 高46.8%
- パフォーマンステスト(話す・書く)両方実施の割合 中90.8% 高49.1%
- デジタル教科書・教材を含むICT機器の効果的な活用

【事業目的】

小・中・高等学校を通じて、客観的データを基に授業改善・学習改善を行い、ICTを活用しながら、4技能をバランスよく育成し、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる発信力の向上を確実に図る。

【事業内容】

調査結果分析

- ◆ R4英語教育実施状況調査
- ◆ 全国学力・学習状況調査
- ◆ 県学力把握調査
- ◆ 指定校GTEC①

実施・分析

ワーキンググループ
(WG)

P

授業改善・学習改善

◆ 指定校授業提案

デジタル教科書・ICTの効果的な活用
Yamanashi English Channel

◆ 全県対象研修会

小：英語専科/中・高：英語科教員
指導・評価(テストング)改善等

研究指定校

6校(小2・中2・高2)

D

全小・中・高等学校

授業改善・学習改善

全県・全国への波及

◆ 成果報告会

※ 県内外対象

成果物の共有
全校授業改善・学習改善報告



A

C

調査結果分析

指導・助言

◆ 指定校GTEC②

実施・分析

◆ R5英語教育実施状況調査



県下・全国に波及する効果

- ☑ 客観的データ(CEFR-J)に基づいた4技能における的確な指導改善・評価改善。
- ☑ 言語活動を中心に据えた、英語で行うことを基本とした授業の実施。
- ☑ パフォーマンステストやペーパーテストにおけるテストングの質の向上。
- ☑ デジタル教科書・教材を含むICT機器を活用した効果的な実践を共有。

児童生徒の
4技能育成
発信力向上



山梨県教育委員会

国際交流・異文化体験活動

○山梨県の主な課題（R4年度英語教育実施状況調査より）

- ア 英語による言語活動に重点を置いた授業づくりにおいて学校種間の共有が不足
- イ 全ての校種において指導と評価の一体化が不十分
- ウ 全ての校種において言語活動やコミュニケーションを重視したICTの活用が不足



各校種で解決する
のではなく…

○山梨県の取組

- ア 小・中・高の連携を踏まえた「活発な英語による言語活動」に重点を置いた授業づくり
- イ 小・中・高、「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある」評価改善
- ウ 全ての校種で、「個別最適な学びと協働的な学び」を往還し、児童生徒の発信力の向上につながる1人1台端末の活用に向けた先進的な取組

学校種間連携（小・中・高連携）

□情報交換（授業参観等） □交流（研究協議等） □カリキュラム作成（CAN-DOリスト等）

□指導・学習内容（言語材料等）でつなく □指導・学習方法（言語活動等）でつなく

□学習評価（パフォーマンステスト等）でつなく □教材・教具でつなく □人でつなく



授業改善・学習改善

□指導：「活発な英語による言語活動」 ※授業は英語で行うことを基本・ALT活用 等

□評価：「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある評価」 ※テスト改善 等

□ICT：「個別最適な学びと協働的な学び」 ※1人1台端末・学習者用デジタル教科書 等

各種調査
アンケート



GTEC

児童・生徒の英語力向上（意欲含む）

生徒の英語力向上に関する分析

○生徒の英語力の向上には、相関分析や取組の変化に着目した経年変化分析の結果、「生徒の言語活動の割合」「英語教師の英語力や発話の割合」「ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動）」等が影響を与えている。

○今回新たに把握した、CEFR B1（英検2級）レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が高い高等学校では、ICTを活用した言語活動やALTによる授業外の活動を行っている学校が高い割合でみられた。

⇒生徒の英語による言語活動を増やすこと、言語活動の取組でICTやALTを効果的に活用すること、教師が英語力を高め授業で積極的に英語を使用することなどが、生徒の英語力の向上に必要。

※今後、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果等と併せて、教育委員会や学校等の取組と生徒の英語力の関係についてさらに分析予定。

生徒の英語力と各項目の相関（中学校・高等学校）

	生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合	「CAN-DOリスト」形式による学習到達を公表している学校の割合	小学校/中学校と連携している学校の割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を50%以上の授業で実施した学校の割合	CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合（※1）
中学校	0.45*	0.37*	0.34*	0.37*	0.13*
高等学校	0.33*	0.27	0.18	0.33*	0.20*

*5%水準で有意（両側）

（※1）のみ学校単位の相関（その他は都道府県単位）

【参考】経年で伸びが見られた主な取組（※2）（中学校の例）

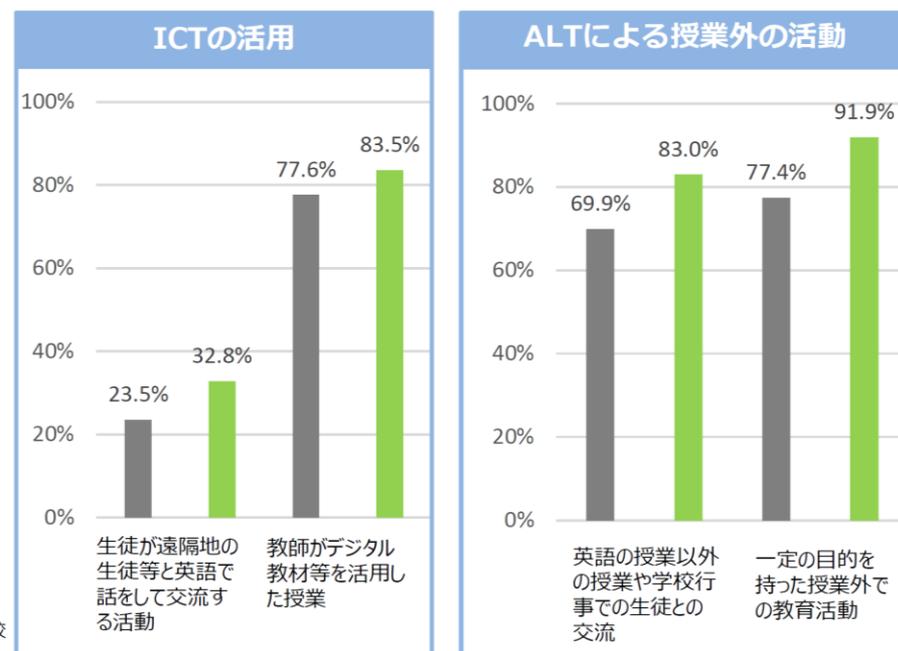
生徒の英語力に影響を与えた可能性が高い取組	差分の差 ^{※3}
授業において、生徒が英語で言語活動をしている時間の割合（第3学年）	0.073
英語担当教師の英語による発話の割合（第3学年）	0.052
ALTによる授業外の活動（英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流）	0.045

※2 政令指定都市立の中学校について、R元年度とR4年度における取組の変化に着目し比較。上記の取組が増加している学校で、CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の生徒の割合が増加がみられている。

※3 差分の差 = (取組に変化があった学校群の英語力の差分) - (取組に変化がなかった学校群の英語力の差分)

例えば、「0.073」は、取組に変化があった学校群の方が、取組に変化がなかった学校群より、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合の増加量が7.3%高かったことを示す。ただし、着目した取組以外の取組や外部環境の影響を受けている可能性もあることに留意が必要。

CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が平均より高い学校の傾向（高等学校）



■ 学科全体（該当学科の全体平均）

■ CEFR B1レベル相当以上を取得している/有すると思われる生徒の割合が学科別平均より高い学校

大学教授による講義（指導助言）

学校種間連携（小・中・高連携）

□指導：「活発な英語による言語活動」

※授業は英語で行うことを基本・ALT活用 等

□評価：「10年間を見据えた、CEFRに基づく一貫性のある評価」

※テスト改善 等

□ICT：「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

※1人1台端末・学習者用デジタル教科書 等

①亀谷みゆき教授（朝日大学）

②太田洋教授（東京家政大学）

③田中武夫教授（山梨大学）

R5年度提案
授業のポイント

児童・生徒の英語力向上（意欲含む）

1学期 異校種の授業を「知る」 指定校連絡会議・第1回ワーキング



○甲府市立相川小学校
6月 2日(金)
○甲府市立北東中学校
6月23日(金)

○甲州市立塩山北小学校
6月22日(木)
○甲州市立塩山中学校
7月 6日(木)・7日(金)



○甲府西高等学校
6月15日(木)
○都留高等学校
7月11日(火)・12日(水)

2学期 異校種の授業を「つなぐ」「生かす」
提案授業
GTEC

県内英語科教員対象
研修会
・小中高連携研修会
・小学校英語専科教員研修会
・中学校英語科教員対象学習会
・高校教員英語部会 等

3学期 成果発表会(県内外へ)

令和5年度英語教育改善プラン推進事業

提案授業日程

								当日指導助言者（参加者）		
実施日	学校名	対象学年	授業者	時間・場所	研究会	民間企業撮影	講師	本庁	教育事務所・市教委・センター	
1	10月16日(月)	北東中学校	中1 伊東 葵 Tayla Meyer	13:35~14:25 1Fコモンスペース	14:35~16:00 1Fコモンスペース	○	太田教授 田中教授	佐藤・河西 永田TC	山田TC・白倉TC・三枝TC	
2	11月10日(金)	塩山中学校	中2 中村 大介 David Over	13:30~14:20 体育館	14:40~16:00 多目的室	○	田中教授	佐藤・河西 永田TC	小林TC・岩下TC・那須TC 三枝TC・小林教育長	
3	11月24日(金)	相川小学校	小5 赤井 大悟 Daniel Woosley	13:50~14:35 体育館	14:45~16:15 体育館	○	酒井教授 田中教授	佐藤・河西 永田TC	山田TC・岩下TC	
4	11月28日(火)	塩山北小学校	小5 三枝 英太郎 Tom Stone	13:45~14:30 体育館	14:45~16:30 体育館	○	酒井教授 田中教授	佐藤・河西 永田TC	小林TC・岩下TC 小林教育長	
5	12月15日(金)	甲府西高等学校	高1 志村 かおり	AM 検討中	PM 検討中	○	亀谷教授 田中教授	佐藤・河西 永田TC	山田TC・角田TC	
6	12月15日(金)	都留高等学校	高1 秋山 さやか	PM 視聴覚室	PM 視聴覚室	○	亀谷教授 田中教授	佐藤・河西 永田TC	山田TC・岩下TC・小林TC 三浦TC・角田TC	

9月26日(火)	第2回WG(小高)	
10月2日(月)	第2回WG(中)	
1月31日(水)	第3回WG	
2月9日(金)	成果発表会	基本WGメンバー全員参加・民間企業撮影
2月15日(木)	委託終了	
3月1日(金)	国との委託終了	

小中高等学校：8/10 小中高外国語教育連携研修会
 小学校：9/14 小学校英語専科教員学習会
 中学校：10/17 中学校英語教諭対象学習会
 高等学校：6/8・9/7・11/9 高校英語部会



県内英語科教員対象研修会

英語教育改善プラン推進事業 研究指定校アンケート

小学校(教員用・児童用) 中学校(教員用・生徒用) 高等学校(教員用・生徒用)

○目的

本事業を通して、英語担当教師が授業改善(指導改善・評価改善)を行うとともに、児童生徒が学習改善をしながら、英語力(意欲含む)を向上させていく変容を見取る。また、本事業の成果と課題を明確化するツールとする。

○対象

教員:外国語(英語)担当教師全員(外国語活動・外国語科担当教師)
児童生徒:外国語(英語)を学習している児童・生徒全員が基本

○時期

第1回:5月上旬

※提出期限:令和5年5月23日(火)

第2回:1月中旬

※提出期限:令和6年1月19日(金)

○方法

- ・Google フォーム or Microsoft Forms
- ・Excel

○その他

- ・調査項目は変えずに実施し、提出してください。
- ・校内研等使う場合は、調査項目を加えても構いません。

R6年1月30日(火) 第3回WG会議までにやっていただきたいこと

○異校種の学習者用デジタル教科書の使用（見るだけでも・・・）

○GTEC受験 → 授業改善

○第2回研究指定校アンケート R6年1月19日(金)×切

○R6年2月9日(金)「成果発表会」で各校の発表で必要となるものの準備（少しずつ・・・）

- （例）・提案授業の学習指導案にある単元終末の言語活動やパフォーマンステストの実施（撮影・記録・分析）
- ・ICT（1人1台端末）活用事例 等

※成果発表会については、随時連絡をします



提案授業指導案検討について

分科会【15:25~16:45】

指導案検討 ①15:25~16:05 ②16:05~16:45

○小学校部会 9/26 第3研修室

①相川小学校(11/24) ②塩山北小学校(11/28)

酒井教授・山田 TC・岩下 TC・小林 TC・三枝 TC・田中座長・佐藤 TC

○高等学校部会 9/26 第1パソコン室

①甲府西高校(12/15) ②都留高校(12/15)

亀谷教授(オンライン)・三浦 TC・角田 TC・田中座長・永田 TC・河西 TC

Zoom オンライン情報:ミーティング ID 861 470 9537 パスコード 2626

○中学校部会 10/2 情報研修室

①北東中学校(10/16) ②塩山中学校(11/10)

太田教授・山田 TC・岩下 TC・白倉 TC・小林 TC・三浦 TC・三枝 TC・

田中座長・佐藤 TC・永田 TC・河西 T

提案授業指導案検討について

進め方(例)

司会()TC

①各校からの説明【5～10分】

特に本時について、悩んでいることや相談したいことを中心に説明

②全体検討【15分】

③有識者指導助言【15～20分】

※②と③は同時におこなっていただいても構いません。

**【参考】 学校種間接続(小中高連携)
指導・評価・ICTの観点 等**

Thank you for your attention.